



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2014年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コーヒー・アワー : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)
 : 益田デーロ (英語部)
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)
 : (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

石 叫 口

◎石叫 ■ 「聖地旅行」その⑮
 最終日はテルアビブの世界遺産「白い街」を観光し、夕食を摂った。聖地での最後の食事だ。その直前のこと、美しい海岸通りをバスは走っていた。それはまた、真っ赤な夕陽が地平線に消えてゆくときでもあった。それはこれまでの十日間が美しい思い出に彩られていたことを象徴しているかのようで、そのタイムイングといい、その荘厳さといい、一同、声もなくただ見入っていた。それは黄金に輝く天のエルサレムを見せてくれたようで、畏敬の念にも似ていた。
 テルアビブのベングリオン空港での出国手続きは世界で一番厳しいという。ようやくその手続きを終えて待合室に入ると、まもなくして搭乗アナウンスがあった。そこで皆が手を取り合って最後の祈りを捧げた。これまでの多くの思い出に残るフェローシップがあった。もちろん、二十六名の団体旅行というので大小さまざまな行き違いもあった。でも、これで別れねばならないのだと思うと、やはり万感迫るものがあった。特に、毎回バスに乗る度に祈り、集会ごとに祈ってきただけに、これが最後なのだと思うと、感慨は一しおであった。
 機外ではすでに暗黒の世界が広がっていた。でも、何とはなしに窓を開けて外を見ていると、一瞬光るものがある。真夜中の大西洋上で光るものとは一体何だろう、まさかUFOではないだろうか、と一瞬思ったりもしたが、それは雷だった。一万メートルの機上から、はるか眼下に雷が輪となって光っていたのだ。でも、不思議だったのは、目の前に冬の星座オリオンが輝いていたことである。そしてその左下に全天で一番光るシリウスがまぶしかった。「雲上快晴」という言葉があるが、雷と星座と一緒に見えるというのは「機上快晴」とも言うべきか。どんなに目の前に嵐のような光景が展開されていても、その上には雲一つない世界が広がっているということを改めて知らされて感動であった。
 やがて眼下に街の灯が見え始めたときだった。途端にアメリカに帰ってきた、という安堵感が心に広がった。アメリカがこの時ほど愛しく感じられたことはなかった。そこには信仰の友がいる。そして何よりも愛する子供たちがいる。でも、「帰って来たよ」と言える家内がない。家内との婚約指輪は神殿の西壁に埋めてきたのだった。それが何か半身を残してきたようで心に疼いていた。もう幾ら叫んでも、この地上では家内に会うことはできない。だが、まもなく会える時が来る。それが天のエルサレムだ。「わたしたちの国籍は天にある」(ピリピ三・20)という神の約束が、希望の光となって心を平安にしていた(完)。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。

私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

